

平成 28 年度 第 38 回関東ミニバスケットボール大会

派遣報告書

東京都ミニバスケットボール連盟

上阪 紘也

【派遣期間】 1月7日（土）～1月9日（祝）

【競技会場】 鹿沼総合体育館フォレストアリーナ
ブレックスアリーナ宇都宮（宇都宮市体育館）

【参加チーム】 〈男子〉

山梨県：牧丘ミニバスケットボールスポーツ少年団/大国ミニバスケットボールスポーツ少年団

千葉県：前原中野木MBC/旭町ミニバスケットボールクラブ

東京都：光華ミニバスケットボールクラブ/田無HOOPミニバスケットボールクラブ

埼玉県：氷川ミニバスケットボールスポーツ少年団/F.F.ファイヤーズスポーツ少年団

神奈川県：柿生レッズ/桜丘ミニスターズ

群馬県：新田ミニバスケットボールクラブ/城東ペガサス

茨城県：河和田RED WOLVES/茨大附属ミニバスケットボールスポーツ少年団

栃木県：宮の原ミニバスケットボール部/みはらミニバスケットボール部男子

BRAVES/豊田フレンズ

〈女子〉

山梨県：敷島南ミニバスケットボールスポーツ少年団/松山ミニバスケットボールスポーツ少年団

千葉県：ジュニアファイブ/野田MBC

東京都：多摩フェアリーズ/深川ミニバスケットボールクラブ

埼玉県：松伏ジュリア/川口じりんMBC

神奈川県：川上北ブルーデビルス/成瀬ミニバスケットボール教室

群馬県：桐生広沢女子ミニバスケットボールクラブ/大泉スターキッズスポーツ少年団

茨城県：大野ミニバスケットボールスポーツ少年団/下妻MBC

栃木県：宮の原ミニバスケットボール部女子/宝木ミニバスケットボールスポーツ少年団

安蘇野中央ミニバスケットボールクラブ/みはらミニバスケットボールスポーツ少年団

【日程】 <1月7日(土)>

- 15:00 集合・受付(ホテルニューイタヤ)
- 17:00 審判会議(ホテルニューイタヤB1F ローズ)
- 18:30 夕食懇親会

<1月8日(日) 競技第1日目>

- 6:30 朝食
- 8:00 ホテル出発
- 9:00 審判講習会開講式
- 9:30 競技開始(フォレストアリーナ・ブレックスアリーナ)
- 15:20 競技終了
- 15:30 1日目閉講式・諸連絡
- 18:00 大会レセプション

<1月9日(祝) 競技第2日目>

- 6:30 朝食
- 7:30 ホテル出発
- 8:30 審判講習会開講式
- 9:00 競技開始(フォレストアリーナ・ブレックスアリーナ)
- 15:00 競技終了
- 15:20 閉講式・諸連絡
- 15:30 解散

◎意識して変えていけること

- ・見栄え（プレゼンテーション） ⇒ 常に見られている意識
- ・ルール・マニュアルの理解 ⇒ 正しい判定のために必要不可欠
知っている≠コート上で出来る
- ・フィットネスの維持

◎経験と共に変わっていけること（梶氏自身の経験から）

- ・プレイの見方 ⇒ プレイを長く見て判断できるようになった。瞬間的な判定が減った。
- ・プレイの理解 ⇒ ゲームに合った判定が出来るようになってきた。
ゲーム中に多くのことを感じる。変える必要性を感じる。

◎今大会で取り組んでほしいこと

- ・意識できることは意識し続ける。 ⇒ 続ければ無意識でもできるようになる。
- ・自分のエリアを責任もって判定する。 ⇒ 協力の第一歩となる。
- ・新しいメカニクの活用 ⇒ 言葉に惑わされ動きがなくなってはダメ。
良い判定をするための手段ということを意識して活用できるように。

◎まとめ〈ステップアップのためには〉

- ・課題と責任を持って取り組む。
- ・ゲーム中に多くのことに気づく。
- ・気づきやアドバイスを生かせるように自ら考える。

【担当試合】

・1月8日（日）ブルックスアリーナ宇都宮（宇都宮市体育館）

① 試合開始 / 9時00分

対戦カード / 前原中野木MBC（千葉県） — F.F.ファイヤーズ（埼玉県）

主審 長井 章氏（神奈川県）

副審 上阪 紘也（東京都）

主任：大木 裕一氏（山梨県）

〈ミーティング内容〉

- ・センター同士の攻防について
⇒ 全体的に白が接触を求めているように感じる。
スクリーンや手の使い方をもっと気にしているとよかった。
- ・セットアップポジションにいる時間が長い
⇒ 右へ行って判定したほうがよいケース。
結果的に遅れて移動して判定していることもあった。

- ② 試合開始 / 12時45分
対戦カード / 成瀬（神奈川県） — 安蘇野中央（栃木県）
主審 攪上 達也氏（群馬県）
副審 上阪 紘也（東京都）
主任：渡邊 信一氏（栃木県）

<ミーティング内容>

- ・2人のレフリーが同じ基準で判定することができていた。
- ⇒ ディフェンスの手の使い方など
ゲームの初めの段階でしっかりと示すことができていたため、選手にも伝わっていた。
- ・エリア3でプレイが行われているとき
- ⇒ トレイルレフリーがもう少し角度を変えて見ていると安心できた。
- ・TO管理について気を使って進めていた。
- ⇒ ショットクロックのリセットのタイミングやタイマーの管理。

・1月9日（祝）鹿沼総合体育館フォレストアリーナ

- ① 試合開始 / 11時00分
対戦カード / ジュニアファイブ（千葉県） — 川上北（栃木県）
主審 大木 裕一氏（山梨県）
副審 上阪 紘也（東京都）
主任：宮島 美幸氏（栃木県）

<ミーティング内容>

- ・初日の梶氏の講義であった、“意識してできること”に気を付けていることが良く伝わってきた。
- ⇒ プレゼンテーションやファウルのレポートなど。
アウトオブバウンズに対してコートに背を向けて指し示したりすることが所々で見られた。
そういった細かいところまで意識ができることよりよい。
- ・ドリブラーに対する接触について二人の間の基準の差が気になった。
- ⇒ ゲーム中のコミュニケーションをもっと密に。
自分の中で吹いたものを整理し直すことも一つの手である。

- ・コートの外から見ていると取り上げているものにばらつきがあるように思う。
- ⇒ シングルコールで取り上げたケースを振り返ると課題が見えてくるのではないか。

② 試合開始 / 13時10分

対戦カード / BRAVES（栃木県） - 河和田（茨城県）

主審 深澤 雅俊氏（山梨県）

副審 上阪 紘也（東京都）

主任：相木 康岳氏（千葉県）

<ミーティング内容>

- ・選手、ベンチ、観客、レフリーが一体となった良いゲームであった。
 - ・このゲームで取り上げなくてはならないファウルはブロッキング。
- ⇒ プレイヤーが手の使い方に気を使っていて、悪いものがほとんどない。
- ・リードの動きとしてもう1歩2歩内側へ入っていないと正しく判定できないケースがあった。
- ⇒ このゲームではそこで何か起こったわけではないため気付くことは難しいと思う。

7 総括

今回初めて関東大会への派遣の機会を頂きました。所属連盟の大会でしたが、今まで経験したことのない公式戦の緊張感のなか、2日間、計4試合の審判に取り組むことができました。初日の梶氏の講義を受けて自分自身が意識していることを見直すことで、今の自分の実力を痛感するとともに、新たな課題に気づくことができた大会となりました。

最後になりましたが、今回の派遣にあたりお世話になりました開催地の栃木県の皆様、ご指導いただきました講師の皆様、他県審判員の皆様、派遣の機会を頂いた東京都の皆様に感謝と御礼申し上げます。ありがとうございました。